

# 「阪神港利用促進プロジェクト」の創設 ～国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の再活性化に向けて～

近年、釜山港をはじめとする東アジア主要港の取扱貨物量の増加が著しく、阪神港（神戸港・大阪港を一体にとらえた呼称）の地位は大きく低下した。この現状を打破するためには、阪神港に国内の貨物を集める「集貨」、コンテナ貨物を創る「創貨」といった取り組みが重要であり、その支援を目的に、このほど「阪神港利用促進プロジェクト」が創設された。

## 阪神港の現状

阪神港は1995年の阪神・淡路大震災の影響により、取扱貨物量が大きく減少した。その後の反発力も弱く、世界的にコンテナ貨物の取扱量

が増大するなか、阪神港の伸びは鈍い状態が続いている。一方で、釜山港や上海港といったアジアの主要港湾は、経済成長やターミナル料金のコストパフォーマンスのよさを背景として急成長を遂げており、結果として阪神港の地位は大きく低下する

こととなった(表)。

また、欧米基幹航路を運航する船会社は、相対的に集貨力が低下した阪神港から、釜山港などのアジア主要港へと寄港地をシフトしており、阪神港の国際基幹航路数も大きく減少している(図)。

このような状況のため、本来であれば阪神港が取り扱うべき日本国内からの欧米向け貨物でさえ、アジア主要港で積み替えを行うトランシップ貨物に取って代わられているのが現状である。

〈表 港湾別貨物取扱量ランキング〉

	1980年		1995年		2012年
1	ニューヨーク	1	香港	1	上海
2	ロッテルダム	2	シンガポール	2	シンガポール
3	神戸	3	高雄	3	香港
4	香港	4	ロッテルダム	4	深圳
5	高雄	5	釜山	5	釜山
6	シンガポール	6	ハンブルク	6	寧波
7	サンファン	7	横浜	7	広州
8	ハンブルク	8	ロサンゼルス	8	青島
9	オランダ	9	ロングビーチ	9	ドバイ
10	シアトル	10	アントワープ	10	天津
	⋮		⋮		⋮
38	大阪	23	神戸	52	神戸
			⋮		⋮
		26	大阪	57	大阪

出所：日本銀行神戸支店HP  
「特別レポート『神戸港の質的変貌～集荷力低下と将来像』より作成

## 阪神港の再活性化に向けて

阪神港の地位がさらに低下し、基幹航路への接続を国外の港湾に依存する構造がいったん定着すると、国内の荷主が安価で短時間の直接

〈図 欧米基幹航路数の推移(アジアの主要港と阪神港の比較)〉



出所：国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部HPより作成

寄港ルートが選択できないといった利便性の低下や遅延リスク、荷痛みのリスクはもとより、アジアの経済成長を関西経済に取り込めなくなるなど懸念される。また、今は安く利用できているアジア諸港の使用料が上がった場合のリスクをヘッジできないといった課題も考えられる。

そのような事態に陥らないために、国土交通省港湾局は平成26年度予算の基本方針の中で「港を核とした国際コンテナ物流網の強化(国際コンテナ戦略港湾政策の深化と加速)」を掲げている。これは「集貨」「創貨」「競争力強化」の3つの施策を柱とし、わが国に寄港する国際基幹航路の維持・拡大をはかるものである。

「集貨」の取り組みとしては、内航フィーダー網の改善に向けた集貨支援制度の創設や外航船への積替機能強化のための実証を行う。

貨物の需要創出をはかる「創貨」の取り組みとしては、阪神港の背後用地に企業を誘致し産業集積を促進するとともに、無利子貸付制度の対象施設に流通加工機能を伴う倉庫を追加するなど物流施設の整備に対する支援を拡充する。

「競争力強化」の取り組みとしては、コンテナ船の大型化や取扱貨物量の増大等に対応した大水深コンテナターミナルの機能強化といったハード面からの支援と、大阪港埠頭(株)と神戸港埠頭(株)が2015年までに経営統合して誕生する予定の港湾運営会社に対する出資制度を創設するといった、ソフト面からの支援も行う。

このように国際コンテナ戦略港湾政策を活用しながら、阪神港に欧米向けの貨物を集約し、基幹航路数を維持・拡大していくためには、官民が一体となって事業を推進することが不可欠である。

### 「阪神港利用促進プロジェクト」創設へ

関西では、2006年以降、陸海空の国際物流インフラの整備と活用に向けて産学官で取り組む「国際物流戦略チーム」(本部長：森関経連会長)を設置している。特に昨年には、阪神港への集貨促進に向けた「阪神港利用促進プロジェクト」を創設した。このプロジェクトは、社会情勢やビジネスニーズにより適応し、具体的な事業アイデアにもとづ

く、独自性の高い国際物流サービスの開発をめざすもので、事業者主体でビジネスを創出する点が特徴である。

昨年10月に事業の募集を開始し、今年3月に開催された第10回本部会合において6事業が認定された。その内訳は、内航フィーダー\*による西日本各地から阪神港への「集貨」に関わる事業が4件、物流倉庫の設置により阪神港での「創貨」に寄与する事業が1件、貨物専用の保険商品の販売により阪神港の利用環境を改善する事業が1件となっている(次頁参照)。今後は、「国際物流戦略チーム」が告知活動など、事業普及・拡大のためのバックアップを行っていく。



(地域連携部 山根吉貴)

\*国内の地方港から基幹航路の就航する主要港へコンテナ貨物を船舶輸送するサービス。

## 「阪神港利用促進プロジェクト」活性化セミナーを開催

3月14日(金)、国際物流戦略チームの主催で「阪神港利用促進プロジェクト」の認定事業を物流事業者や荷主企業に紹介するセミナーを開催した。

国際物流戦略チーム幹事会の黒田勝彦座長の挨拶後、近畿地方整備局の成瀬英治港湾空港部長が、「阪神港における国際コンテナ戦略港湾政策の展開」をテーマに講演し、引き続き各事業者によるそれぞれの事業の特色や強みについて説明を行った。

6月以降、同内容のセミナーを九州地区や中四国地区で

も開催を予定しており、西日本から阪神港への集貨促進を呼びかけていく。



# 阪神港利用促進プロジェクト 認定事業

## 阪神港～瀬戸内／九州 内航フィーダー機能強化事業

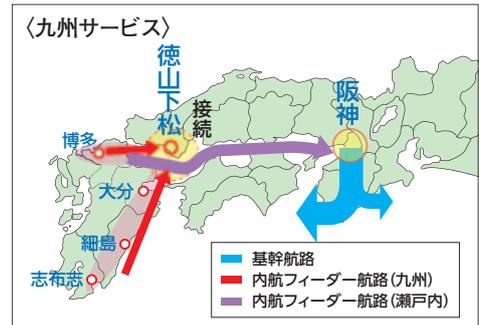
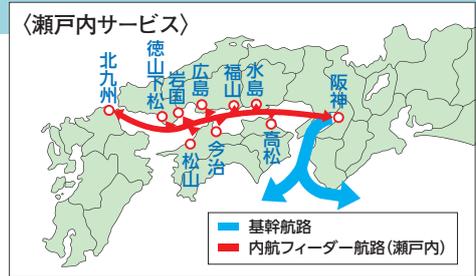
### 西日本内航フィーダー合同会社

#### 事業概要

- ・瀬戸内／九州から阪神港へコンテナを集貨する輸送サービスを提供。
- ・大型船のメリットを生かし、合同会社メンバーの協力により、スピード・料金の両面で他社にはできないサービスで荷主にアピール。

#### サービスの特長

- ・一般貨物船に比べ乗組員の少ないプッシャー型コンテナ船を利用することで低コスト輸送が可能。
- ・阪神港に入港する外航サービスを利用し、多様な海外ネットワークに接続。
- ・内航、荷役、保管、陸送等のサービスを包括し、一貫輸送として実施することで料金の引下げが可能に。さらに、少量貨物でも回収する柔軟な寄港スケジュール編成が可能。



## 阪神港と瀬戸内・九州諸港を結ぶ内航コンテナフィーダー事業

### 鈴与海運株式会社

#### 事業概要

- ・阪神港を起点に、瀬戸内・九州諸港を内航船で1週間2往復運航。
- ・瀬戸内・九州地域の中でも特に顧客ニーズの高い北九州・志布志港を中心に運航。

#### サービスの特長

- ・不特定顧客への幅広い営業を展開。
- ・ウィークリー、定曜日で運航するため、荷主企業にとっては長期的な物流計画の作成が可能に。



## 阪神港⇄九州・瀬戸内 母船フィーダー運航事業

### Orient Overseas Container Line Ltd Japan Branch

#### 事業概要

- ・西日本各港と阪神港を結ぶフィーダー網を構築し、自社専用船によるリードタイムの短いフィーダーサービスを提供。

#### サービスの特長

- ・利用するフィーダー船に自社専用運航船を投入することで、阪神港寄港母船とのスムーズな接続とリードタイムの短縮が可能。
- ・阪神港寄港を週3回とし、その前日または翌日は各地方港に寄港するトランシップサービスを構築。利便性の高いスケジュールを設定。
- ・輸入港である大阪港、輸出港である神戸港の両方に外航航路を有するため、大阪港から地方港に空コンテナを供給し、地方港から神戸港へ実入コンテナを回収することが可能。
- ・各地方から阪神地域へ陸送される内貿貨物を、海上輸送へモーダルシフトすることも検討。CO<sub>2</sub>削減に寄与する。

## ISO規格海上コンテナによる次世代型の「国内海上コンテナ輸送網」構築プロジェクト

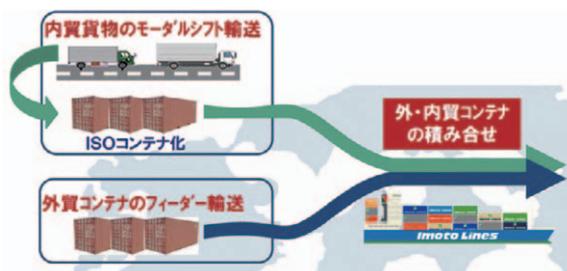
### 井本商運株式会社

#### 事業概要

- ・ISO規格海上コンテナによる次世代型の「国内海上コンテナ輸送網」を構築。
- ・輸出入フィーダー貨物(外貿コンテナ)・国内動脈貨物(内貿コンテナ)・国内静脈貨物(内貿コンテナ)の3種類の貨物を積み合わせることで、船型の大型化・低燃費化を実現する。

#### サービスの特長

- ・ISO規格海上コンテナを国内流通に投入し、内航コンテナ船による新しい国内幹線輸送サービス「海コン便」を提供。
- ・国際・国内という区分を取り払い、外・内貿コンテナを一体的に阪神港へ「集貨」。



## 夢州物流センターの新設

### 横浜冷凍株式会社

#### 事業概要

- ・大阪ベイエリアの低温物流ニーズの高まりに応え、最新スペックの物流センターを新設。

#### サービスの特長

- ・ホコリや暖気の侵入を防ぎ、低温でも効果的な除湿を可能にするハイブリッドデシカント陽圧方式や電動式移動ラックの導入による高い品質管理を実現。
- ・太陽光発電システム、自然冷媒(アンモニア、CO<sub>2</sub>)等を活用した冷蔵倉庫により環境への配慮を徹底。
- ・天井ヘアピンコイルによる自然対流冷却方式、リチウムイオン電池蓄電によるBCP確立など、最適な保管環境を提供。



## 国内物流総合保険特約付き外航貨物海上保険

### AIU損害保険株式会社 西日本地域事業本部

#### 事業概要

- ・主に貨物の保管・輸送中のリスクについて、通常の事故による損害に加え、地震・津波による損害も含めた幅広い補償(オプション)を提供。
- ・地震・津波による補償部分についても、個別に阪神港の港湾所在地の地震リスクにもとづいて保険料を算出するなど、オーダーメイド型で保険料の算出および補償内容を設計。
- ・日本国内の輸送だけでなく、保管中も補償。

#### サービスの特長

- ・阪神港を利用する荷主企業には、地震リスクについても積極的な推進を行い、最適な補償の提供が可能。個別コンサルティングあり。
- ・外航貨物海上保険専門の損害サービスセンターにおけるユニット体制による迅速な事故対応、AIGグループの世界的ネットワークを活用した損害防止サービスなど、専門性とグローバル性を兼ね備えた商品・サービス。